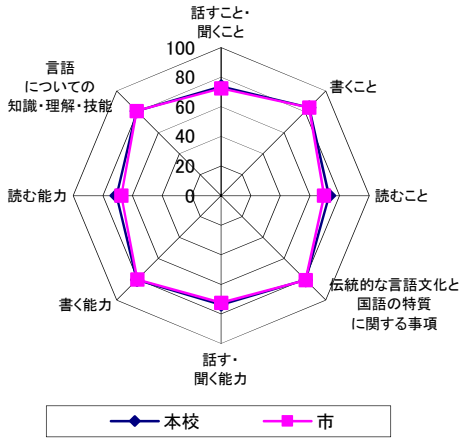
宇都宮市立宮の原中学校 第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと･聞くこと	73.7	72.4	70.5
	書くこと	84.0	84.1	70.0
	読むこと	72.8	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.7	80.8	77.7
観点別	話す･聞く能力	73.7	72.4	70.5
	書く能力	80.6	80.2	68.0
	読む能力	70.7	67.5	62.4
	言語についての知識･理解･技能	80.8	80.8	77.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

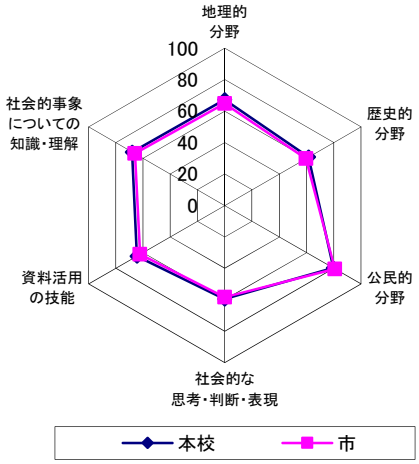
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は，市の平均を1.3%上回っている。 ○「司会者の役割を果たす」問題の正答率は，市の平均を1.5%上回っている。 ●「話の内容を正確に聞き取る」問題の正答率は，市や国と比べても約２%ほど低い。	・話し合い活動では，今後も，意見交換の時間を多く 設け，意見を述べることに苦手意識を持つ生徒たち が，それを参考にしながら考えられるように工夫していく。 ・内容を正確に聞き取らせるために，話し合い活動で出た意見を自分の言葉で表現できるようにする。また，メモを取る習慣をつけるように指導する。
書くこと	○観点別の平均正答率は0.4%上回っている。 ○「読み取った内容を明確にして書く」問題の正答率は，市の平均を1.1%上回っている。 ●領域別の平均正答率は，市の平均0.1%下回っている。 ●全体として，平均正答率が市の平均と差がない。他の領域に比べ，「書く」領域を不得意とする生徒が多い。	・意見文を書かせる際に、根拠の具体例を考えさせ，書き始める前に構成を組み立てるように指導する。(主張・根拠を明確にして書く練習を根気強く行う。) ・実際に書いた文章を生徒同士で読み合い，いいところ，改善できるところを自分たちで考えさせるようにする。 ・授業の中で自分の意見をノートに書かせる発問をし，書くことへの抵抗を減らす。
読むこと	○平均正答率は，市の平均を3.3%上回っている。 ○「文章の展開に即して内容をとらえる」問題の正答率は，市の平均を6.5%上回っている。 ●「文章の構成や展開をとらえる」問題の正答率は，読む領域の中で唯一市の平均を下回った。基本は押さえているものの，活用していくことができない生徒が多い。	・小論文の読み取りに関しては，今後もワークシートなどを利用し，論の展開に注意させ，主張を的確に把握させる工夫を行っていく。特に，接続表現に注意しながら読ませる。 ・小説の読み取りに関しては，会話文や情景描写などを，細かく取り上げ，人物の心の動きに注目させるよう工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「品詞の分類」についての問題の正答率は，市の平均を2.5%上回っている。 ●漢字の読み書きでは，市の平均を６%近く上回る設問もあったが，同様に下回る設問もあり，着実な知識としている身についているとは言い難い。 ●文法に関する知識も，平均正答率が４割にとどまるものもあり、確実に理解できている生徒が少ない。	・苦手な生徒の多い用言の活用を指導する際には、実際に自分が書いた文章の中で確認したり、新聞や小説の中の文を使って学習を進めていく。 ・漢字の指導では、小テストを行い、新出漢字だけでなく既出の漢字も再度確認しながら定着させていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第３学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.2	64.8	54.5
	歴史的分野	61.5	59.7	52.2
	公民的分野	79.8	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.5	58.3	49.5
	資料活用の技能	64.4	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	67.9	66.0	57.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

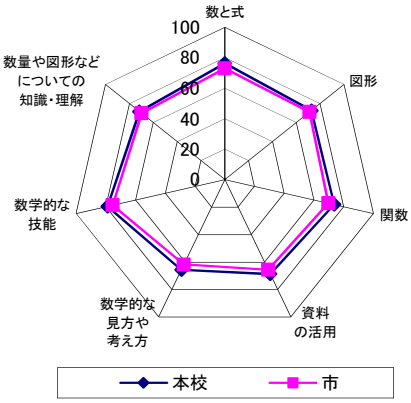
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○平均正答率は，市の平均を2.4%上回った。 ○日本の諸地域についての平均正答率は，市の平均をどの問題においても上回っている。 ●平均正答率は，全体として市・全国の正答率を超えているものの，資料を活用しての記述問題のポイントが他分野に比べ低い。	・資料を読み取って考察し，記述で表現する活動を多く取り入れるよう工夫していきたい。
歴史的分野	○平均正答率は，市の平均を1.8%上回った。 ○知識・理解についての平均正答率がおおむね高い。特に江戸時代の政治のしくみ、文化では顕著である。 ●藤原道長の政治の問題に見られるように，資料を読み取る能力が若干低い。	・資料を読み取って考察し，記述で表現する活動を多く取り入れるとともに，資料を読み取るために必要な基礎知識の定着を図れるよう工夫していきたい。
公民的分野	●平均正答率は，市の平均を1.1%下回った。 ○知識・理解についての平均正答率がおおむね高く，情報化社会に関する問題は市の平均を2.6%上回った。 ●物事の採決や争点の決め手となる，効率と公正の判断基準に関する理解度が低い。	・基礎・基本の定着を図り，重要語句を記述できるようにさせる。また，日本の社会事象に関して興味を持たせるために新聞などを活用しながら理解を深めさせていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.3	73.0	67.5
	図形	72.7	71.1	59.5
	関数	73.7	69.7	60.0
	資料の活用	68.8	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	65.6	61.8	49.6
	数学的な技能	78.9	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	71.7	69.8	62.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

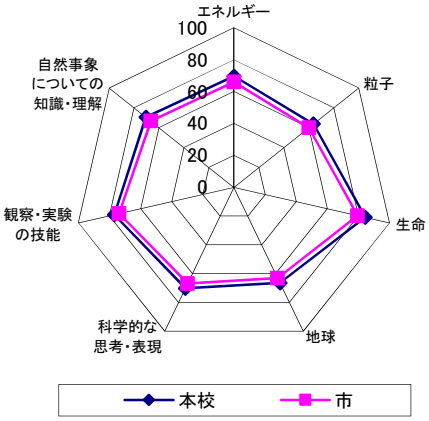
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は市の平均より3.3%上回っており，正答率76.3%と領域別では最も高い正答率の領域である。 計算過程を大切にしながら，丁寧な計算処理や表現の指導の成果と考えられる。 ●設問別に見ると，平方根の大小について理解しているかを問う問題の正答率は市の平均より 1.8%下回っている。また，根号を含む乗法を問う問題の正答率は1.6%下回っている。	・授業開始時に基礎計算問題プリントを準備して取り組んだり，授業時間内により多くの計算練習ができるようワークなどを利用して取り組んできた成果が見られる。 ・計算の仕方や計算処理がまだ定着しない生徒も見られるため，引き続き基礎計算問題についてより速くより正確に処理できるよう練習・指導していく必要がある。 ・平方根の基本について復習する必要がある。
図形	○平均正答率は市の平均より1.6%上回っている。特に，証明の必要性を問う設問に対する正答率が市の平均を7.0%上回っている。 ●作図方法の理解を問う設問と回転移動の理解に対する正答率が，市の平均をそれぞれ0.6%，2.4%下回っている。特に，作図方法の理解を問う設問に対する正答率が57.6%となっており，他の設問の正答率と比較すると低い正答率である。	・証明の仕方については丁寧な指導と生徒の取り組みの成果が見られるが，作図や図形の移動に関する問題について演習の機会を増やし，さらに理解を深めさせる必要がある。
関数	○平均正答率は市の平均より4.0%上回っている。設問別に見ると比例の式から，その関係を表す表を選ぶ設問に対する正答率は90.2%と最も高い。 ●平均正答率は市の平均を上回っているが，グラフの読み取りの記述問題については正答率50.0%と最も低い正答率の領域である。応用問題に対する理解不足が見られる。	・比例，一次関数，２乗に比例する関数の基本的な知識や理解力は身に付いているが，関数領域を苦手とする生徒も多く，さらに演習の機会を設け，苦手意識を無くすとともに応用力を身に付けさせる必要がある。
資料の活用	○平均正答率は市の平均より3.2%上回っている。設問別に見ると7個の球から1個を取り出すときの確率を求める設問に対する正答率は93.8%と最も高い。 ●平均値の含まれる階級の度数がもっとも多いという考えが適切でない理由を，ヒストグラムの特徴をもとに説明する設問に対する正答率が49.6%と最も低く，ヒストグラムから全体の傾向を読み取る能力が定着してないことが分かる。	・相対度数や中央値（メジアン），最頻値（モード）など，普段あまり目や耳にしない言葉も多く，定着が図られていないことが結果から読み取れるため，資料の活用に関する基本的な知識や理解を再確認する必要がある。

宇都宮市立宮の原中学校 第３学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	69.8	66.1	56.4
	粒子	63.7	60.0	57.4
	生命	84.4	79.4	75.2
	地球	66.4	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	70.2	66.8	57.2
	観察・実験の技能	76.9	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	70.6	66.6	61.1

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

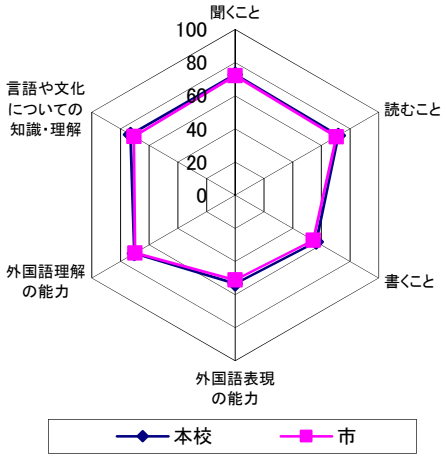
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギー単元の平均正答率は，市の平均を3.7%上回っている。 ○「誘導電流について理解している」の正答率は，市の平均を11.9%上回っている。 ●「紙テープの打点のようすから，台車の速さの変化がわかる」の正答率は，市の平均を1.7%下回っている。	・運動のようすを調べた記録テープを0.1秒分ごとに切り，グラフ用紙にきれいに貼り付けて，丁寧にまとめさせる。グラフ用紙に貼られた１本１本の記録テープの長短は何を表しているか説明する。
粒子	○粒子単元の平均正答率は市の平均3.7%上回っている。 ○「酸化銅の還元の実験で，酸化された物質と還元された物質を理解している」の正答率は，市の平均を7.2%上回っている。 ●「電離について理解している」の正答率は，全国の平均を3.7%下回っている。	・電解質の水溶液が電流を通すことを想起させ，イオンが存在していることと関係があることを伝え，電離を粒子のモデルを使って説明する。
生命	○生命単元の平均正答率は市の平均5.0%上回っている。 ○「植物の花のつくりについて理解している」の正答率は，市の平均を8.8%上回っている。 ●「裸子植物と被子植物の胚珠のつくりのちがいを理解している」の正答率は，市の平均を0.6%下回っている。	・実物を提示し，学習対象にイメージを持ちやすいようにする。投影装置や拡大写真を用い，視覚的に比較できるようにする。
地球	○地球単元の平均正答率は市の平均3.3%上回っている。 ○「地層にふくまれている粒の大きさから，土砂が堆積したときの海水面の変化を推測できる」の正答率は，市の平均7.0%上回っている。 ●「台風が北上したときに東寄りに移動する理由を説明できる」の正答率は，市の平均を1.8%下回っている。	・日本付近の台風の進路の特徴を見いだして，その原因を考えさせる。日本付近の大気の動きを地球規模の大気の動きの中で捉え，地球規模の大気の動きの原因を理解させる。

宇都宮市立宮の原中学校 第３学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	72.8	72.2	67.8
	読むこと	71.8	70.5	70.4
	書くこと	56.3	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	53.5	51.2	49.2
	外国語理解の能力	70.2	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	73.0	70.7	74.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	〇「聞くこと」の平均正答率は，市の平均を0.6%上回っている。 〇英文の概要を聞き取る問題の正答率は，市の平均を1.4%上回っている。 ●英文の要点を聞き取る問題の正答率は，市の平均を，4.5%下回っている。	・毎回の授業でリスニングを行い，聞かせる回数を増やす。特に，対話の中で，要点に注意しながら聞かせ，大切なところをしっかり聞けるようにする。 ・All Englishの授業を行い，日常的に英語に親しませる。
読むこと	〇「読むこと」の平均正答率は，市の平均を1.3%上回っている。 〇長文の読み取りの内容把握の問題の正答率は，市の平均を2.2%上回っているものもある。 ●メールの内容を読み取る問題の正答率は，市の平均を1.5%下回るものもあった。	・単語の意味や文の構造などにも注意しながら読ませるようにする。 ・たくさんの長文読解問題に慣れる必要があるので，教科書以外の様々なジャンルの英文を読ませ，Q&AやTorFテストで大意をおさえるとともに，それにかかわる細かい読み取りができるようにする。
書くこと	〇「書くこと」の平均正答率は，市の平均を2.0%上回っている。 〇3文以上のまとまった英文を書く問題の正答率は，市の平均を2.1%上回っている。 ●並べ替えの問題の正答率は，市の平均を下回るものもあった。	・連語なども覚えさせ，表現力を高めさせる。 ・自分の意見を英語で伝えられるよう実践的な場面を与えた上での書く活動を取り入れる。

宇都宮市立宮の原中学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・「開始時に着席している」の肯定割合は，１年99.1%，２年97.7%，３年96.4%で，「忘れ物をしない」の肯定割合は，１年96.4%，２年95.9%，３年95.1%で，全て95%を超えている。「授業に集中している」の肯定割合は,１年95.9%，２年90.5%，３年92.4%で，全て 90%を超えている。
・授業展開の工夫	・対話や協働的な作業を取り入れた授業展開を行う。	・「グループでの話し合いに積極的に参加している」の肯定割合は，１年86.9%，２年82.9%，３年85.8%で，全て80%を超えている。 ・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合は，１年72.1%，２年71.2%，３年79.6%で，80%に達していない。 ・「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の肯定割合は，１年79.7%，２年77.5%，３年86.2%で，80%に達していない。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・「宿題を期限までに提出している」の肯定割合は，１年88.7%，２年84.7%，３年83.1%で80%を超えているが，学年が上がるにつれて数値が低下しており，３年は，市の割合を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・現在の学力を維持させていくために，学業指導を基本として３つの重点的な取組を次年度も継続していく。
・パソコンへの習熟度に課題が見られたので，技術・家庭科や総合的な学習の時間等で操作に慣れさせ，各教科で活用の工夫をしていく。
（「パソコンを使ってまとめることができる」の肯定割合は，１年64.9%，２年57.7%，３年57.3%である。「パソコンを使って考えや調べたことを伝えられる」の肯定割合は，１年55.4%，２年50.5%，３年48.0%である。両方とも全学年，市の割合を下回っている。）
・家庭での学習については課題が見られたので，繰り返し家庭学習の目的や内容について根気強く指導していく。
（「その日のうちに復習している」の肯定割合は，１年54.5%で，２年・３年とも昨年の割合より増加しているが，２年47.7%，３年50.7%となっており，全学年とも50%台にとどまっている。「自分で計画を立てて取り組んでいる」の肯定割合は，１年63.5%で，２年・３年とも昨年の割合より増加しているが，２年65.3%，３年68.4%となっており，全学年とも60%台にとどまっている。）